



密閉型 ¥22,000

ADL ▶▶ H118



- 形式：密閉型
- ドライバー：φ40mmダイナミック型
- 再生周波数：20Hz～20kHz
- 感度：98dB
- インピーダンス：68Ω
- ケーブル長：3.0m
- プラグ：ミニ
- 重量：約245g
- 付属品：標準変換プラグ、キャリングケース

静かな音場のなか、落ち着いた音調のサウンドが広がる

ADLが満を持して投入した同ブランド初のヘッドフォンで、磁気回路に特殊高性能マグネットを採用した40mm口径のドライバーを採用している。特殊ポリマーを採用した独自開発の振動板を採用し、銅メッキを施したアルミ合金ワイヤーとの組み合わせで音質をチューニングするなど、アクセサリーの開発で得たノウハウを盛り込んでいることが興味深い。下部に向かって絞り込んだ形状のイヤークップが目を引きだが、これは耳との密着性を高めることを狙ったもので、密閉型のメリットを引き出す効果が期待できる。ケーブルは着脱式で、本機との組み合わせを想定した交換用のケーブルが同ブランドからも発売されている。

装着した途端に静けさに包まれる密閉型ならではのS/Nの良さがあり、その静かな音場のなか、落ち着いた音調のサウンドが広がっていく。音調を左右する中高域にはまったく強調感がなく、ソースのバランスをそのままダイレクトに再現するニュートラルな感触だ。低音は立ち上がりに十分なエネルギーが乗り、緩みのないタッチで適度な量感を引き出してくる。迫力はあるがむやみに響きを残さないで、リズムを重く引きずることや、声の帯域にかぶるなどの副作用が気にならず、セパレーションにも不満はない。中高域の落ち着いた音調と調和する良質な低音なので、全体的な音色の統一という点からも高く評価できる。

(山之内)



ミニXLR仕様プラグ対応の着脱ケーブル。オプションで専用の高性能交換ケーブルも用意されている。

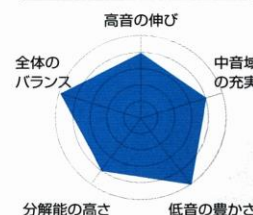


コンパクトに折りたたため持ち運びにも便利。

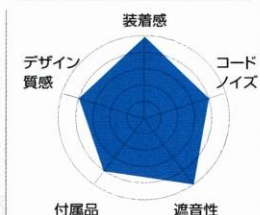
ここがすごい! Advantage & Disadvantage ここが惜しい

誇張のない自然なバランスが本機の長所である。基本性能を確実に押さえているので、ヘッドフォンアンプやケーブルを変えたときの変化をしっかりと聞き取れる点も見逃せないポイントだ。購入後にグレードアップやチューニングを楽しみたいリスナーにうってつけのヘッドフォンといえるだろう。一方、ヘッドフォンに個性を求める音楽ファンは、本機の誇張のない音調に不満を感じるかもしれない。その意味で聴き手を選ぶところがある。

音質



機能性



HEADPHONE BOOK 2014





ヘッドホン部門 **ミドルクラス賞**

ADL **H118**

ヘッドホン初参入ながら 高い完成度を実現

ボリュームゾーンで4ポイントを獲得して受賞したのはヘッドホン初参入となるADLのH118。逆三角形のハウジングがもたらすフィット感、厳選パーツを導入したつくりの良さ、さらにアクセサリを扱う同社らしい、高性能なりケーブル対応などが認められた。また、ADL、オンキヨーなど新規参入ブランドが目立ったのもこのクラスの特徴だった。



SPEC

- 形式：密閉型
- ドライバー：φ40mmダイナミック型
- 再生周波数：20Hz~20kHz ●感度：98dB
- インピーダンス：68Ω
- ケーブル長：3.0m
- プラグ：ミニ ●重量：約245g
- 付属品：標準変換プラグ、キャリングケース
- ¥22,000

	ヘッドホン大賞	ヘッドホン エントリークラス賞	ヘッドホン ミドルクラス賞	ヘッドホン アッパークラス賞	ヘッドホンの殿堂
岩井 喬	シュア SRH1540	ゼンハイザー PX 95	オンキヨー ES-HF300	フィデリオ X1	ゼンハイザー HD 800
大塚 康一	ファイナルオーディオデザイン PANDRA HOPE VI	AIAIAI Tracks Headphone with Mic	オーディオテクニカ ATH-OX7AMP	シュア SRH1540	ボーズ QuietComfort 15
岡田 卓也	フィデリオ X1	オーディオテクニカ ATH-M40x	e☆イヤホン SW-HP11	ビーツ Studio V2	ゼンハイザー HD 800
小田 悟史	ファイナルオーディオデザイン PANDRA HOPE VI	オーディオテクニカ ATH-WS55X	JVC HA-SZ1000	ウルトラゾーン Edition 5	ソニーミュージックコミュニケーションズ MDR-CD900ST
小原 由夫	ウルトラゾーン Edition12	ゼンハイザー PX 95	ソニー MDR-10R	シュア SRH1540	オーディオテクニカ ATH-M50
佐々木 喜洋	ウルトラゾーン Edition 5	オーディオテクニカ ATH-WS55X	オンキヨー ES-CTI300	フォステクス TH600	ゼンハイザー HD 800
中林 直樹	ソニー MDR-1MK2	パイオニア SE-MJ542	ADL H118	シュア SRH1540	パイオニア HDJ-2000
根元 圭	B&W P7	ゼンハイザー PX 95	オーディオテクニカ ATH-A900XLTD	ウルトラゾーン Edition 5	バイヤーダイナミック T1
野村 ケンジ	ゼンハイザー Momentum On-Ear	アルティメットイヤーズ UE4000	ADL H118	シュア SRH1540	AKG Q701
武者 良太	ファイナルオーディオデザイン PANDRA HOPE VI	オーディオテクニカ ATH-WS55X	AKG K545	ゼンハイザー HD 25 ALUMINIUM	AKG Q701
山之内 正	フィデリオ X1	オーディオテクニカ ATH-WS55X	ADL H118	シュア SRH1540	ゼンハイザー HD 800
山本 耕司	ファイナルオーディオデザイン PANDRA HOPE VI	JTS HP-565	ADL H118	KEF M500	ゼンハイザー HD 800
最多得票機種	ファイナルオーディオデザイン PANDRA HOPE VI	オーディオテクニカ ATH-WS55X	ADL H118	シュア SRH1540	ゼンハイザー HD 800



ヘッドフォンアワード 2013

山本 耕司 が選ぶ 「ヘッドフォンアワード 2013」

Koji Yamamoto

2013年の総括と2014年への期待

リケーブルなど多岐にわたる楽しみ方が広がってゆくだろう

2013年もヘッドフォン/イヤフォン界は順調な伸びを見せ、新製品も多くイベントの集客も右肩上がりだった。ヘッドフォン/イヤフォンはマニアだけが買うものではなく、裾野が広がった結果、比較的価格あるいは価格据置で高性能な内容をもった機種が多くなってきている。今後は機器の使いこなし、リケーブルやイヤチップ交換などに加えて、フィッティングによる音質改善や内部のフィルターなどによる音質調整など、個人に合わせたオーダーメイド的なアプローチや、一方ではよりファッショナブルな路線など、多岐にわたる楽しみ方が広がってゆくだろうと考えている。

ヘッドフォン部門
エントリークラス賞

JTS
HP-565
オープン価格 (2,838円前後)



低価格な製品だが、その価格が信じられないほどの音質だ。モニターサウンドという意味では、さらに安いHP-535の方がモニターの音で、HP-565の方が分厚い低音になる。軽く、柔らかめで二重構造のイヤパッドは装着感がよく、高級な造りでもワイドレンジでもないが、普通に温かめの音楽を楽しむことができる。

ヘッドフォン部門
ミドルクラス賞

ADL
H118
¥22,000



ADL H118は不思議なヘッドフォンだ。三角形の形状は個性的だが、音はちょっと大人しく控え目で物足りない感じさえする。そんなサウンドなのだが、5分ほど音楽を聴いていると音楽に引き込まれ没頭している自分に気づく。本当の意味のフラットなサウンドとはADL H118のようなものを言うのではないかと思ったりする。

ヘッドフォン部門
アッパークラス賞

KEF
M500
¥35,000



スピーカーの名門KEFがヘッドフォンを出すというので、音や仕上がりには期待と心配が半々だった。でも、実際に試聴をしてとても気に入った。外に持ち出したいくなる大きさと十分な低音、スーツにもカジュアルなスタイルにもマッチするデザインの良さも魅力的で、スピーカーオーディオを楽しんできた人向けのサウンドだ。

周辺機器部門

ADL
X1
¥39,800



ポータブルアンプだが、PCやMacと組み合わせでUSB-DACになり、192kHz/24bitのハイレゾデータを高音質で再生してくれる。だから、ADL X1を買っておけば後で買い直す必要がない。iPhone/iPadそしてAndroid系にも対応、マイク付きイヤフォンはアップル系ソニー系双方に対応、光出力もありと、小型だがきわめて多機能だ。

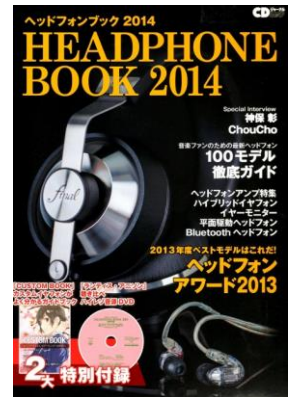
ヘッドフォンの殿堂

ゼンハイザー
HD 800
オープン価格 (15万円前後)



ゼンハイザー HD 800の出現はとても衝撃的だった。それまで体験したことのない解像度や分解能の高さ、そしてデザインや形状も驚きだったし、HD 800を鳴らすヘッドフォンアンプにも大きな影響を与えた。身体と一体化して、音を聴く補装具でもいおうか、まるで音楽を受け止めるサイボーグになったような気分になる。

HEADPHONE BOOK 2014





ヘッドフォン
アワード
2013

中林 直樹

Naoki Nakabayashi

が選ぶ
「ヘッドフォンアワード2013」

2013年の総括と2014年への期待

まだまだ進化の余地があることを気づかせてくれた

ソニーがハイレゾへの本格参入を高らかに宣言し、対応モデルを数多く発表したことが強く印象に残っている。イヤフォンに限って言えば、複数ドライバーの搭載や、それによるボディの拡大、またその装着感を高めるための機構など、まだまだ進化の余地があったことを気づかせてくれた。さて、ハイレゾの浸透によってもたらされるのは、音楽制作と音楽鑑賞とのシームレスな結びつきである。CDという入れ物の制約を受けない、スタジオマスターに限りなく近い音楽が一般のリスナーでも味わえる。その際に求められるヘッドフォンとは、膨大な情報をレスポンスよく捌き、音楽そのものを裸にするようなタイプではないだろうか。その兆候はここに挙げたモデルたちから見え隠れする。



パイオニア
SE-MJ542
¥7,143



ハウジングにアルミを採用。その光沢も上品で、洗練されたルックスだ。4色のバリエーションもあり、いずれも落ち着いた雰囲気にもとめている。しかし、手に取ってみると驚くほど軽量に設計されているのがわかる。また、オンイヤータイプだが、低反発ウレタンのイヤープッドや高めの側圧でホールド感や遮音性能はかなり高い。



ADL
H118
¥22,000



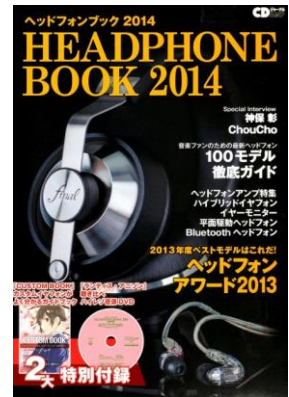
特徴のひとつは「Alphaトリフォーム・イヤカップ」と名付けられたハウジングだ。フィット感や密閉感、そして音のクオリティを高めるために立体的に成形。特殊ポリマーフィルムを使用した振動板のほか、ワイヤーやマグネットに至るまで厳選されたパーツを惜しげもなく投入しているのも特徴。パワフルなヘッドフォンアンブレでしっかり鳴らしたい。



シュア
SRH1540
オープン価格(5万円前後)



オープン型のSRH1840をベースに、密閉型としたのが本機。ただし、単なる形式違いには留まっていない。振動板は強度と耐性、弾性を兼ね備えた樹脂製のAPTIVフィルムを新たに採用。また、イヤープッドには復元性や音響特性に優れたスエード調のアルカンターラとしている。十分な力強さを有したサウンドと豊かな音場が調和している。



ヘッドホンアワード 2013

野村 ケンジ

Kenji Nomura

が選ぶ
「ヘッドホンアワード 2013」

2013年の総括と2014年への期待

2013年は新コンセプトの上級モデルが次々に登場した

もしかすると、2013年はヘッドホンにとって節目の年だったのかもしれない。というのも、昨年は各社から数多く的高级モデル、フラッグシップモデルが登場してきたからだ。しかも、あるメーカーは現行ラインナップの集大成、あるメーカーは新しい方向性を示す試金石というように、その多くが“モデルチェンジ”ではなく“新モデル”となっていて、どの製品からも次なるステップへと突き進もうとする意欲が感じられるのだ。

そんな年の代表モデルを選びだそうとすると、どうしても高額製品に偏ってしまいがちになるが、それじゃあ“野村ケンジ”らしくない、ということで、毎年と変わらずコスパを重要視したチョイスにさせていただいた。



ヘッドホン部門

アルティメットイヤーズ

UE4000

オープン価格 (9,800円前後)



イヤフォンとはまったく異なり、この価格帯のヘッドフォンは層が薄くていつも悩む。しかしながら、2013年はなかなかの注目株が登場した。それがこのUE4000だ。いままでカナル型イヤフォン(とカスタムIEM)がメインだったUEが、初めて手がけたヘッドフォンながら、素直で聴きやすいサウンドを持ち合わせている。上出来といえる完成度だ。



ヘッドホン部門

ADL

H118

¥22,000



いつも散々悩むヘッドフォンのミドルクラスだが、今回はADL H118とオーディオテクニカATH-A900XLTDの2択とシンプルだった。このうちATH-A900XLTDは限定モデルなので、H118を推薦させていただく。フルテック初のヘッドフォンは、生真面目と叫びたいくなるほど素直なサウンドが特徴。音楽や機器の特徴をストレートに表現してくれる。



ヘッドホン部門

シユア

SRH1540

オープン価格 (5万円前後)



相対に難問だったのがこのクラス。素敵な製品がいくつもあり、そのうちの数台は実際に入手したほどだが、コストパフォーマンスや先進性を含めて、SRH1540を推薦させていただこう。SRH1840と共通するスペックを持ちながら価格を抑えているし、アルカンターラ生地のイヤーパードはつけ心地が良好。密閉型というのも使い勝手が良い。





ヘッドフォン
アワード
2013

山之内 正

が選ぶ
「ヘッドフォンアワード 2013」

Tadashi Yamanouchi

2013年の総括と2014年への期待

ハイレゾ音源が基本性能をより高い境地に導くだろう

昨年もエントリーからハイエンドまで各社が旺盛な開発意欲を示し、数多くの優れたヘッドフォン、イヤフォンが登場した。新製品に共通する特徴として、個性を尊重しつつ、基本性能と自然な周波数バランスを重視する傾向が強かったことも指摘しておくべきだろう。あまりに個性的な製品は特にハイレゾ音源を聴くときにソースの良さを引き出しにくいことがあり、長く愛用する製品としては疑問を感じてしまう。ハイレゾ音源が今後幅広いジャンルに浸透していくにつれて、ヘッドフォンやイヤフォンの基本性能はさらに平均値が上がり、より高い境地を目指す製品が増えるに違いない。今後もハイレゾ音源がハードの進化を刺激し続けるだろう。



オーディオテクニカ
ATH-WS55X
¥9,500



新世代の「SOLID BASS」シリーズは、実在感豊かな重低音の再生をテーマにチャンバーの設計を見直しており、デザインも大きく変更された。耳の周囲の密閉度を高めるなど、構造的なリファインが大きな成果を上げており、十分な量感を確保しながら緩みのない重低音を引き出すことに成功している。



ADL
H118
¥22,000



フルテックがADLブランドで投入した密閉型のヘッドフォンで、ロゴを前面に出したデザインが目玉。リケーブルによる音質改善に対応するなど、オーディオアクセサリを手がけるメーカーならではの工夫を凝らしている。忠実度の高さと聴きやすさを巧みにバランスさせた再生音はじっくり付き合う用途に最適だ。



シユア
SRH1540
オープン価格 (5万円前後)



密閉型の最上位機種となる本機は、素材や構造の吟味と作り込みの深さが際立ち、再生音の質感の高さでライバルを引き離す存在だ。特に、薄さと強度を両立させた新素材のダイアフラムを採用したことが注目に値し、反応の良さと密度の高さを引き出すことに成功している。情報量の多いハイレゾ音源も余裕でこなす。